



Polaris news

【北高新聞 NO.202407】

「2030 SDGs カードゲーム」 カードゲームを通して、疑似世界を体感 (2024.10.16)

国際連合地域開発センターの浦上様にお越しいただき、国際理解コース3年生が、SDGsカードゲームを行いました。もう SDGs は見慣れている生徒たちですが、実際の世界を体験することにより、新たな視点で「なぜSDGsが必要なのか」を考え、「SDGsを知って、その後どのように行動すべきか」を考えることができました。実社会でも、「環境を悪くしよう」と思って行動している人はいないが、気づかないうちに環境や社会を悪くしている可能性があること、「困っている」と声を上げないと助けてもらえないこと、などに気づくことができました。「循環者になろう」という言葉が印象的でした。



■生徒の感想より

- 今回のゲームで、自分の行動1つ1つに重みがあることに改めて気づかされました。私1人くらいなら、私が1つ良いことをしたからって世界をよくできないと考えるのではなく、まずは私が！と考えるようにしたいです。
- 経済・環境・社会の3つは密接に関わっていることがわかりました。
- SDGsの前半では全員が自分自身の目標を達成することに夢中になり、自分の得になることだけを考えていた。その結果、環境と社会がとても悪い状態になってしまった。しかし、そのことを指摘されてからは、みんなでその2つを少しでもよくしようと頑張り、協力し合うことができた。カードゲームのように、現実の世界でも全員が一丸となって取り組むことが大切だと思った。
- 個人の選択が環境に影響を与えてしまうことを聞いて、今後は商品を買う際に少し考えてみようと思いました。